

基本情報

所属	現代ビジネス 学部 地域経済学科	氏名	崔 錦 珍 Choi Keumjin
職名	教授	E-mail	choi@cb.kiu.ac.jp
		研究室ウェブサイト	

■ 学歴・取得学位

1989(平成元年)年2月	西京大学校日語日文学科卒業 文学士
1986(昭和61)年3月	慶熙大学校経営大学院観光経営学科修了 経済学修士
1989(平成元)年3月	漢陽大学校大学院観光学科博士課程後期課程 単位取得満期退学
2007(平成19)年3月	立教大学観光学研究科博士課程後期課程修了 観光学博士

■ 主な職歴

1988(昭和63)年12月 ～1993(平成5)年4月	南ソウルホテル(現 The Ritz-Carlton, Seoul)営業部
2008(平成20)年2月 ～2009(平成21)年3月	立教大学プログラムコーディネーター・兼任講師
2009(平成21)年4月 ～2012(平成24)年3月	神戸国際大学経済学部専任教員

教育活動

■ 主な担当授業科目

○ 学 部：観光マーケティング論、観光概論、ホテル・マネジメント論、 入門セミナー、専門演習、卒業プロジェクト

■ 教育上の特記事項

○ 教科書・教材： ○ 教育活動： ○ 免許・資格：

研 究 活 動

■ 研究分野

研究分野	観光学（組織管理、サービスマーケティング）
主な研究テーマ	感情労働がホテル従業員の職務満足に与える影響
キーワード	感情消耗、感情不調和、組織支援

■ 主な著書・論文等

<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（共訳）『質的研究方法』（翻訳書：韓国語）ハンウルアカデミー，2009年3月．A5判 535頁，担当部分：3章テキストの構成と理解（70-88p） 8章半構造インタビュー（147-182p） 15章コーディングとカテゴリ化（312-346p） 17章テキスト会釈の概要（373-381p） 21章質的研究と量的研究（456-470p）． ○（共著）『観光学経営』 岡本伸之編著 朝倉書店 2013年10月 A5判 208頁，担当部分：13.4 / 13.5（156-163p） <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（単）「感情労働がホテル従業員の職務態度に及ぼす影響」立教大学博士学位論文、2007年3月． ○（単）「ホテル従業員の感情不調和が職務態度に及ぼす影響」『日本国際観光学会論文集』 第14巻，27-33頁，2007年3月【査読有】 ○（単）「日本のホテル従業員の感情不調和の発生原因に関する研究（韓国語）」『韓国日本近代学会論文集』，第17巻，235-254頁，2007年8月．【査読有】 ○（単）「接客場面でのストレス対処法が感情消耗に及ぼす影響 -日大のホテルの接客従業員を中心に-」『Ceri エンタテインメント研究論文集』（韓国）第8巻，111-135頁，2007年12月．【査読有】 ○（共）「日本のホテル業における正規・非正規社員の職務意識に対する比較」『観光・レージャ研究（韓国）』第20巻3号，319-338頁，2008年8月．【査読有】 ○（共）「感情労働のプロセスおよび影響要因に関する研究」『観光研究（韓国大韓観光経営学会）』第23巻4号，199-218頁，2009年2月．【査読有】 ○（共）「組織のサービス志向性がホテル従業員の感情消耗に及ぼす影響」『日本国際観光学会論文集』第18巻，33-39頁，2011年3月．【査読有】 ○（共）「サブカルチャーによる文化産業クラスターの観光地化」『観光・レージャ研究（韓国）』第24巻2号，385-404頁，2012年2月．【査読有】 ○（共）「世界の7大自然景観」選定の意義と課題」『東北亜観光研究（韓国）』第8巻4号，1-28頁，2012年11月．【査読有】 ○（共）「CIT を利用したツアーコンダクターの感情労働の要因に関する考察」『東北亜観光研究（韓国）』第9巻2号，203-223頁，2013年5月．【査読有】 ○（共）「「ツアーコンダクター」の感情労働が職務態度に及ぼす影響」『観光研究（韓国大韓観光経営学会）』第28巻4号，47-65頁，2013年10月．【査読有】 ○（共）「日本観光客の熟知性と釜山の観光イメージ研究」『平和学研究（韓国）』（韓国平和研究学会） 第15巻1号，214-260頁，2014年3月．

- (共)「九州の観光イメージと親密性に関する研究 —プサンの大学生を中心として」『東北亜観光研究(韓国)』第10巻3号, 1-28頁, 271-293頁. 2014年8月. 【査読有】
- (共)「ドラマ『アイリス』秋田ロケによるフィルムツーリズムの発生とその構造」『観光研究(日本観光研究学会)』第27巻1号, pp. 79-89頁, 2015年9月. 【査読有】
- (共)「大阪の観光イメージ調査分析」『東北亜観光研究(韓国)』第11巻4号, 257-275頁, 2015年11月. 【査読有】

学会発表

- (単)「感情労働がホテル従業員の職務態度に及ぼす影響(韓国語)」『韓国日本近代学会第15回国際学術大会発表論文集』, 311-321頁, 2007年5月.
- (共)「秋田県の観光地における「アイリス効果」とは?」『日本観光研究学会全国大会研究発表論文集』, 27号, 313-316頁, 2012年12月.
※平成24年度科学研究費助成事業 基盤C課題番号24611020に基づく研究発表
- (共)「관광자행동과 영상미디어의 영향 -드라마 아이리스를 중심으로 -」(観光者の行動と映像メディアの影響-ドラマ「アイリス」を中心として) Northeast Asia Tourism Conference in Kitakyushu City, pp. 49-53, 2014年8月.
※平成24年度科学研究費助成事業 基盤C課題番号24611020に基づく研究発表
- (共)「관광자행동과 영상미디어의 영향 -드라마 아이리스를 중심으로 -」(観光者の行動と映像メディアの影響-ドラマ「アイリス」を中心として) (韓国語)『Northeast Asia Tourism Conference in Kitakyushu City』, 49-53項, 2014年8月.
※平成24年度科学研究費助成事業 基盤C課題番号24611020に基づく研究発表.
- (共)「大阪の観光イメージ調査分析—韓国人を中心に—」『2015 International Tourism Conference in Ulaanbaatar9th TINA, Tourism Institute of Northeast Asia Proceeding』, 30-35頁, 2015年8月.
- (共)「「フィルムツーリズム」における韓国旅行の不満事項」『日本国際観光学会第19回全国大会発表論文集』34-35頁, 2015年10月.
※この研究はJSPS科研費15K01963の助成を受けたものである.
- (共)「「ファンツーリズム」の実態—アイドルファンへの聞き取り調査から—」『第30回日本観光研究学会全国大会学術論文集』281-284頁, 2015年11月.
※この研究はJSPS科研費15K01963の助成を受けたものである.
- (共)「ファン行動の発展段階とファンツーリズム」第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 273-276項, 2016年12月.
※この研究はJSPS科研費15K01963の助成を受けたものである.
- (共)「ファンツーリズムにおけるコミュニケーション —宮城県利府町での大規模コンサートを事例として—」第31回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 473-476項, 2016年12月.
※この研究はJSPS科研費15K01963の助成を受けたものである.
- (共)「ファンとファンツーリズム受入地域の相互作用 —アイドルグループのメガコンサートを事例として —」第16回ホスピタリティ教育学会全国大会発表集, 3-6項, 2017年2月.
※この研究はJSPS科研費15K01963の助成を受けたものである.
- (共)「ファンツーリズムと外国人ファンの行動分析」International Conference by Tourism Institute of Northeast Asia, Vladivostok,

Russia, 41-46 頁, 2017 年 5 月.

- (共) 「ファンの宿泊を伴う『遠征』行動とファンツーリズム」第 32 回日本観光研究学会全国大会学術論文集, 121-124 頁, 2017 年 12 月.

その他

[研究ノート]

- (共) 「Who Are the Tourists Motivated by the Korean Drama “IRIS” ?」

『立教大学観光学紀要』第 16 号, 132-135 頁, 2014 年 3 月. 【査読有】

- (共) 「日本におけるロケ地めぐり観光研究の動向と用語の整理」

『立教大学観光学紀要』第 17 号, 45-51 頁, 2015 年 3 月. 【査読有】

- (共) 「日本におけるファンツーリズム行動研究の動向」『立教大学観光学部紀要』第 18 号, 1-9 頁, 2016 年 3 月. 【査読有】

- (共) 「ファンツーリズムの基本的構造 —アイドルファンへの聞き取り調査から—」『立教大学観光学紀要』第 20 号, 123-131 頁, 2018 年 3 月. 【査読有】

- (単) 「オーバーツーリズムの発生と持続可能な観光発展の課題」『九州国際大学国際・経済論集』第 5 号, 193-206 頁, 2020 年 3 月.

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

--	--

■ 主な所属学会

日本観光研究学会、日本国際観光学会、동북아관광학회東北亜観光学会 (韓国)

■ 受賞等

--	--

■ 研究助成金による研究

- 科学研究費補助金 基礎研究(C) 分担研究者 課題番号 15K01963
2015 年度～2017 年度

社会における活動等

- 外部委員
- 講演会パネラー
- その他

大学運営活動等

- 教務委員
- その他